

コロナウイルス感染拡大による影響調査の結果について



長崎県医療ソーシャルワーカー協会

調査概要

調査目的:コロナウイルス感染拡大による会員への影響を把握する
現況下における会員のニーズを把握する

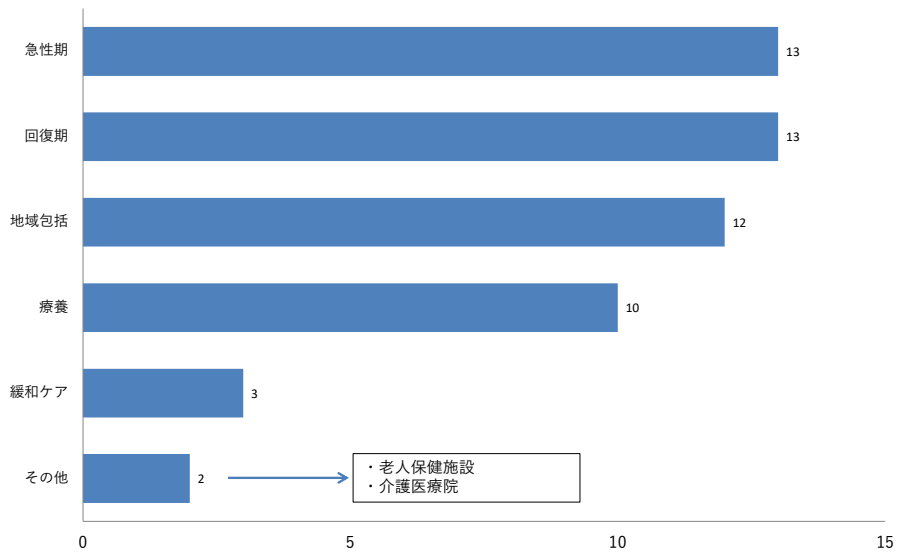
調査期間:5月27日~6月10日

方 法 :会員向けメーリングリスト, FAXにて調査票を配布

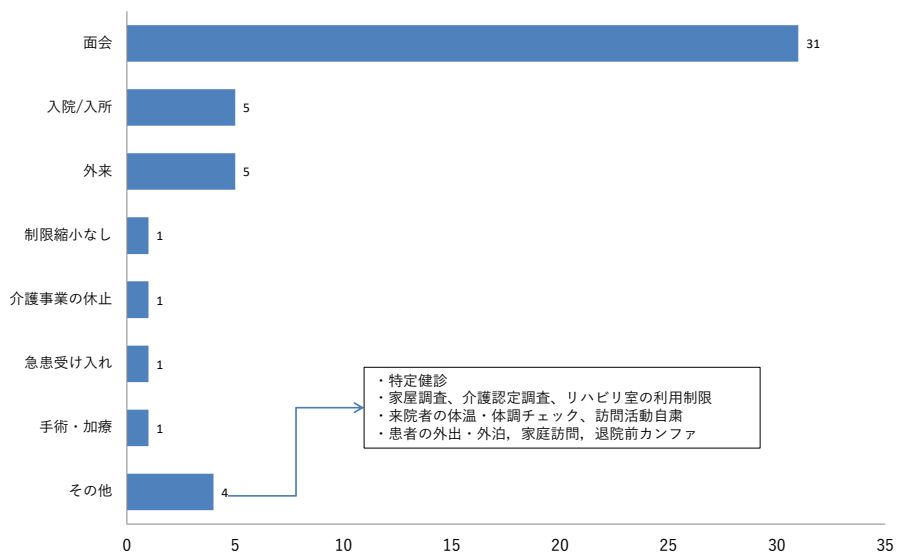
回 答 数 :32件(22医療機関32名)

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

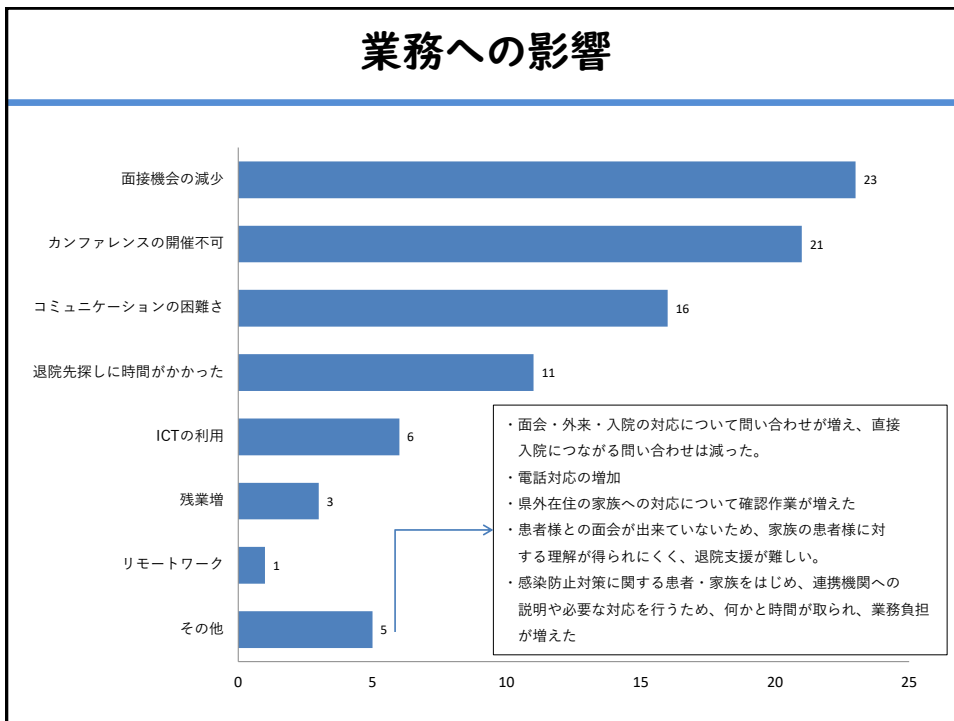
所属する医療機関の主な機能



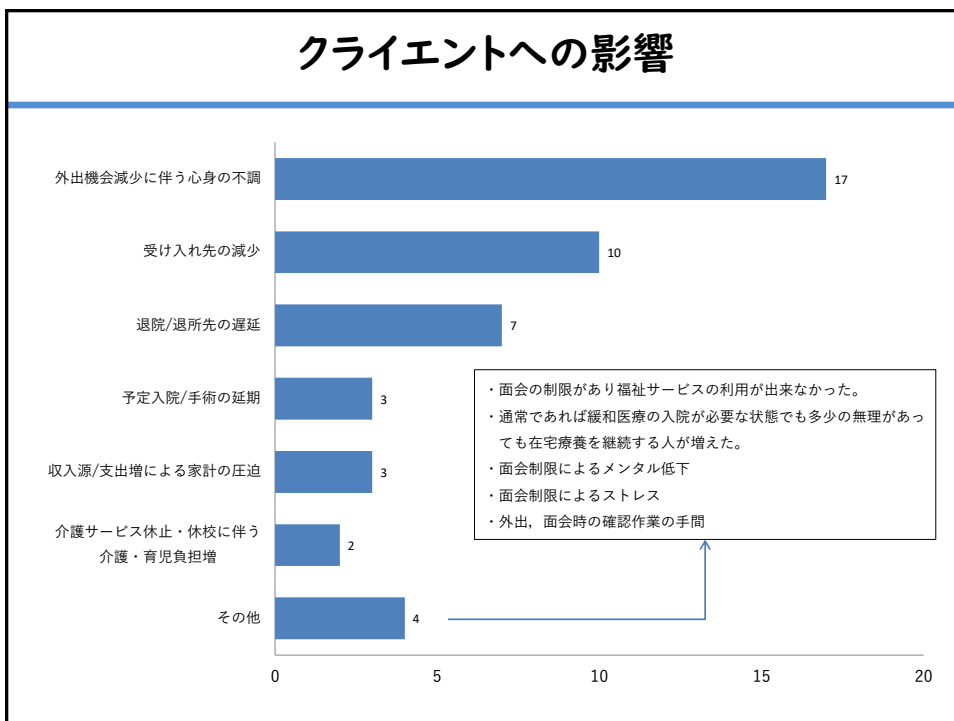
所属機関で行われている制限



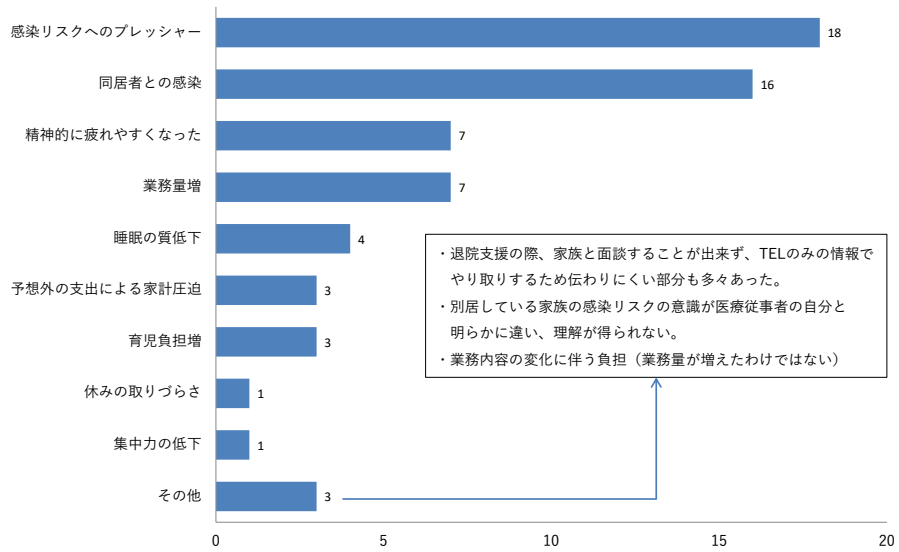
業務への影響



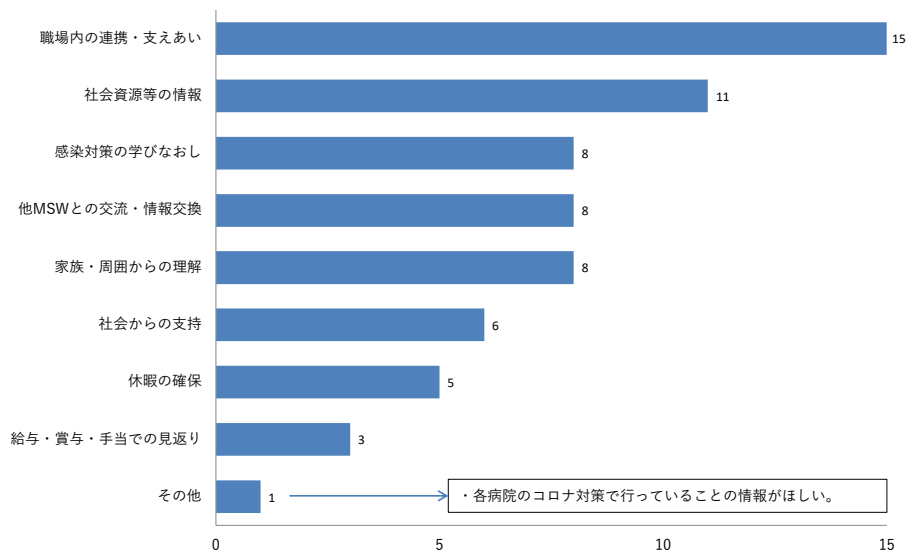
クライアントへの影響



自身への影響



必要とするサポート



自由記載（仕事をしていて感じること、協会への要望・提案）

- ・今回のコロナウイルスにより、退院支援が上手くいかず在院日数が長くなり在宅復帰率の低下がみられた。そのため、他職種にも声掛けすることで、Dr・Ns・コメディカルなど多職種間で退院支援を意識することが出来、よいきっかけとなった。
- ・ICTの活用を個人的にも・業務にももっと取り入れないといけないと痛感した。今年度は（所属機関や地域での）会議や研修等をオンラインで計画している。もっと早くから取り組むべきだったと反省している。
- ・面会制限がなかった頃は家族からの心理的サポートを患者が受けることが出来ていたが、制限を設けたことにより患者様のストレス・ご家族のストレスが病院スタッフに向けられていることが多い。
- ・面会制限中、本人と家族が会えないという状況の中で、両者から「様子がわからない」という不安がよく聞かれた。病院に入院というだけで不安は大きいと思い、このような状況下でなくても本人・家族への報告・連絡は逐一していく方が良いのではないかと改めて感じた。
- ・感染拡大予防のための業務が加わり、通常業務がスムーズに進まなくなった
- ・第二波に備え、ICTの活用や連携室（SW部門）業務における感染対策についても学ぶ機会があるといいと思います。

自由記載（仕事をしていて感じること、協会への要望・提案）

- ・退院支援を行う上では他機関との連携が重要な役割を担っているため、面会が制限されることにより顔が見えない中での連携（本人と面会ができず状況が把握しづらい等）は非常に不自由に感じるが多かったです。また、面会制限についても病院によって基準や対応が異なるため、当院の面会制限に対してご家族からの不満や苦情が多かったように感じます。今後はこういった感染対策で多人数での会合や勉強会を開催することはなかなか難しい状況になってくると思われるため、リモート会議等で情報交換や学びの機会が得られる方法を模索し、体制を整えていかなければならないと感じます。そういった体制を整えることで遠方であったり家庭の事情等でなかなか会議や勉強会に出席しづらい会員も情報交換や連携の場が増えるのではないかと思います。
- ・研修会等が減ったので学びの機会や他MSWとの交流がなくなったのは残念です。今後はオンライン等の活用が増えるのかなと思います。
- ・このような世界規模の感染拡大への対策・対応は初めてなので、とにかく今後どうなっていくのか不安を感じる。しかし、今は正しい情報を取捨選択し、そのうえで適切な判断・行動が求められていると思うので、冷静に行動することに努めています。役立つ情報があれば教えてください。
- ・大変なことは多いがICTの活用など働き方改革になっていることもあるので、出来る限りポジティブにとらえるようにしている。